

『ベイトウン自然体験クラブ』学習要綱

1、目的

- 1) 身近な自然の素晴らしさを知り、生命の尊さと環境問題についての正しい認識
- 2) 自然とどう向き合い、どう付き合っていくべきかの理解
- 3) 自然体験活動とグループ行動を通して、自主性、主体性を伸ばす
- 4) 「友達100人プロジェクト」と銘打って、子供同士の繋がりを深め、イジメや引きこもり予備軍の撲滅（子ども社会の確立）
- 5) 「豊かな心」と「道徳心」のある子どもの育成

2、進め方

- 1) 「ベイトウン自然体験クラブ」を年に8回開催する。
- 2) 正しい知識の伝達のため、毎回、第一線で活躍中の講師を招集する。
- 3) 活動は「安全」を最優先に行う。
- 4) 知識の押し売りはしない。気づきや発見を尊重し、考え、行動できる人材の育成を目指す。
- 5) 体験型の学習とし、自然や環境を体験したことを体で感じ消化してもらう。
- 6) 競技性を持たせることで、やる気を喚起し、継続して参加したくなる仕掛けを設ける。

3、実際の活動とその狙い（予定、変更の可能性あり）

1) 6月：ネイチャーゲームと街路樹を使ったオリエンテーリング

ネイチャーゲームで自然を題材にした遊びを行い、身近な自然を感じてもらう。
また、最も身近に有る自然「街路樹」を題材とすることで、街中にある樹木の存在を認識させ、また興味を持たせることで自然を大切にすることを養う

2) 7月：子どもお天気教室（夏休み企画第一弾）

子どもお天気教室では、雲の10種雲形を学習し、雲の表情によって起こる天気の変化、予測の方法を知る。また、雲～雨～川、海～水蒸気～雲・・・という水の大循環について知る。また、講師の気象予報士ならではの、自由研究の5つのヒントを披露する。

3) 8月：子ども樹木博士（夏休み企画第二段）

子ども樹木博士では、千葉の代表的な樹木についての知識を身につける。また、森林の大切さと地球温暖化防止に占める役割を理解する。最後に、覚えた樹木の数によって、「級」、「段」の認定を行う。子どもお天気教室と子ども樹木博士では、地球規模の大きな視野で環境問題を意識してもらう。

4) 8月：竹とんぼ教室&第1回ベイタウン地区チャンピオン大会（夏休み企画第三弾）

竹の伐採から竹とんぼの材料への変化の過程を知る。自分でキリやヤスリなどの道具、そして火やボンドを使って「良く飛ぶ竹とんぼ」作る。どうすればよく飛ぶのかを経験的に理解する。最後に作った竹とんぼで飛距離を競う大会を開催する。

5) 9月：海辺の生き物探し

自然の宝庫である船橋三番瀬で活動を行う。普段、潮干狩りでアサリ程度しか目にしていない場所に、実は何十何百種類という生物が共存し、食物連鎖が存在することを学習する。また、自然環境の破壊について学習する。

6) 10月：秋の自然観察会&ドングリを食べる

昔はドングリが貴重な食料源であったことを知る。ドングリが食べられることで、樹木と人間の関わりを理解する。

7) 12月：クリスマスケーキ&蜜蝋のキャンドル作り

ダッチオーブンを使い野外料理を体験する。環境を壊さない工夫を考える。グループごとにケーキを作りチームワークや各自の役割の大切さを知る。

8) 2月：小さい春・見~つけた♪ 自然観察会とネイチャークラフト

まだまだ寒さが厳しいこの時期。植物たちは春への準備を始めている。その春を見つけに行こう。また、ネイチャークラフトでは、自然素材の素朴な感覚を楽しむ。自分で考え作り上げる達成感を味わう。ナイフや鋸など道具の使い方を身につける。

4、目指す所

ベイタウン遊びの楽校主催の「ベイタウン自然体験クラブ」から巣立った子ども達が、やがて大人になり、そして各地に散らばり、その土地で自然体験活動のリーダーとして力を発揮してくれることが私たちの夢でもある。

以上

2006年5月1日
がっこう
ベイタウン遊びの楽校
代表 依田 司